

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000099		
法人名	特定非営利活動法人 エイチアンドイーグループ		
事業所名	グループホーム だいのじ (1F)		
所在地	京都府長岡京市竹ノ下18-1		
自己評価作成日	平成26年3月30日	評価結果市町村受理日	平成26年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年4月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気を大事にし、職員と利用者が家族のような関係を構築できるようにしている。</li> <li>・利用申し込み順ではなく、その方の入所に際しての理由、緊急性その他の諸事情を勘案して対応している。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>個々の利用者を尊重し、寄り添い支援することを心がけ、ユニットごとに職員間で介護方針が作られています。職員会議では議題を職員から書面で出せるようにしたり、職員から利用者の社会参加についての意見が出され、手作りの野菜や小物等を隣の施設の夏祭りにブースを出せるように取り組んでいます。また、利用者がホームの中だけで過ごすのではなく、庭のベンチで外気浴をしたり、買い物や行きたい場所へ個別に出かけるなどの外出支援をしています。更に行事としてみかんやいちご狩り、水族館等への外出支援を多く取り入れ、利用者を楽しんでもらっています。重度の利用者への対応は家族や本人の意向を大切に考え、状態の変化に合わせて話し合っています。看取りの支援の経験があり、家族の協力を得て、医師からのアドバイスをもらいながら方針やケアを統一し取り組んでいます。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・そのように努力している。	今年度の目指す方向性を一つにするために、ユニットごとに職員間で話し合い、介護方針が作られています。個々の利用者を尊重し寄り添う介護などの方針を共有し、実践できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・まだ十分ではない。	近隣の施設の喫茶を利用したり、地域の野菜や花を購入しています。また、地域の祭りの際には獅子舞や神輿に立ち寄りてもらい、利用者を楽しんでもらっています。今後、さらに地域の方々との関係作りにも力を入れていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ほとんどできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・まだ十分ではない。	運営推進会議は、市職員や地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催しホームの状況を報告し、意見交換を行っています。参加者の意見からホームの組織体制を見直し、ユニットリーダーを作るなど、運営に活かしています。地域の役員や民生委員、家族にも開催案内をしていますが、成年後見人の参加がみられるのみとなっています。	自治会長や民生委員、家族等に参加してもらえるよう、会議の意義を伝えたり、気軽に来てもらえるよう説明や日時の調整を検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・月1回程度市町村に出向くことがあり、その時に報告をしたり、指導を仰ぐことがある。	市職員が運営推進会議に出席しており、ホームの実情を知ってもらっています。市役所へ出向く機会も多く担当者に気軽に相談したり指導を受けたり、市から研修の案内がFAX等で届くなど、良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・現在2名身体拘束をしているが、いずれもご家族より了解を得ている。	身体拘束をしないケアについては、職員会議で議題にあげ職員に周知しています。日中玄関の施錠はせず、言葉による行動の制止等については、言葉のかけ方の工夫をしています。各居室にある掃き出し窓もできる限り鍵をせず、離設の可能性のある2名の方のみ開き方を調整しています。外に出たい様子があれば、寄り添い外に出ることもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・今後の課題として認識している。		

グループホームだいのじ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・ほとんどできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・そのように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・そのように努力している。	日々の関わりの中で利用者から要望等を聞き、家族からは面会時に意見や要望を聞いています。来訪の少ない家族には電話でコミュニケーションをとり、意見を聞いています。運営に関する意見は少なく、今後ホームの様子を今以上に伝え、意見をもらえるように取り組みたいと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・そのように努力している。	月に1回の職員会議が定例化してきており、議題も職員からも書面で出せるようにしています。職員から利用者の社会参加についての意見が出され、手作りの野菜や小物等を隣の施設の夏祭りにブースを出せるように取り組んでいます。また、職員の様子を見て、必要時に個人面談を行うこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・そのように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・そのように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域の会合等に出席することによって対応している。		

グループホームだいのじ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・そのように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・そのように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・そのように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・そのように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・そのように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・そのように努力している。	友人の来訪があり、一緒に出掛けたりホームでゆっくり過ごしてもらうこともあります。馴染みの店での買い物に行ったり、自宅の隣人から庭の木についての問い合わせがあり一緒に見に行き話をするなど、今までの暮らしが途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・仲の良い利用者同士では行われている。		

グループホームだいのじ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・そのように努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・そのように努力している。	入居前には地域包括支援センター等の関わりを持っていた事業所から情報を得たり、面接時に利用者・家族から希望や意向を聞いています。入居後はコミュニケーションをとり意向を聞き、把握の困難な時は会議で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・そのように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・そのように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・そのように努力している。	利用者の意向を基にアセスメントを行い、ケア会議でケアの方向性を検討し、介護計画を作成しています。利用者の状況に合わせ3か月～6か月ごとに、受診時の情報も加味して見直しを行っています。	職員が介護計画について意識することが少なく、ケア会議の際に計画について意見交換や評価をしたり、計画にそった記録等を検討されてはいいかでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・そのように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・そのように努力している。		

グループホームだいのじ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・そのように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・そのように努力している。	以前のかかりつけ医を継続できることを説明し、かかりつけ医の往診を受けたり受診をしています。受診は基本的には家族の対応ですが、状況によってはホームで支援しています。協力医には月に2回往診に来てもらい、24時間連絡や相談ができる体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・そのように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・そのように努力している。	医療が必要でなく家族の協力等の状況が整えば、看取りの支援ができることを説明しています。利用者の病状や状態の変化に合わせ、家族の意向を確認し看取り支援を行うか病院への入院など対応を話し合っています。これまでに看取りの支援の経験があり、家族の協力を得て医師からのアドバイスをもらいながら方針やケアを統一し、取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・そのように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・そのように努力している。	年に1～2回屋間を想定し、火災時の通報や初期消火、避難訓練を実施しています。消防署には実施に向けて通知し、報告をしています。今後運営推進会議や自治会を通じて、地域との協力体制が築けるよう取り組んでいきたいと考えています。	職員の少なくなる夜間を想定した訓練の実施や、地域の協力体制に向けて働きかけられることを期待します。

グループホームだいのじ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・そのように努力している。	介護の方針に利用者の尊厳を守り安心した暮らしへの支援を挙げており、個々の利用者との関係性に配慮し利用者を尊重した言葉かけを心がけています。その人が希望する呼び方をしたり、プライバシーに配慮し排泄支援時の声掛けは直接的言葉を避けるよう心がけています。不適切な対応があれば、その都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・そのように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・そのように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・そのように努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・そのように努力している。	利用者の希望を聞きながら1週間分ずつ献立を考え、個々の利用者の嗜好に合わせて代替えを用意しています。ユニットごとに食材の購入方法は違い、ネットスーパーを利用したり買い物に出かけています。野菜の下ごしらえなど、利用者のできることに携わってもらっています。職員も同じ食卓に着き、同じものを一緒に食べながら和やかな食事の時間となっています。時には外食に出かけたり、ホームでおはぎなどのおやつ作りを楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・そのように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・そのように努力している。		

グループホームだいのじ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・そのように努力している。	夜間はおむつを使用している利用者もいますが、日中はトイレで排泄できるよう、排泄チェック表を利用しパターンを把握しながら誘導や介助をしています。カンファレンスを重ね関わりを深く持ち、ポータブルトイレを使用しトイレに座ることを習慣づけることができ、失敗が減少した利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・そのように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・そのように努力している。	毎日午後から入浴の準備を行い、3日に1回入れるよう支援し、希望があり状況によっては回数を増やすことも可能です。拒否される利用者にはタイミングを図り、言葉のかけ方を工夫しながら入浴につなげています。ゆず湯などの季節湯や好みのシャンプーなどを持参し、気持ちよく入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・そのように努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・そのように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・そのように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・そのように努力している。	日々庭のベンチで外気浴をしたり、買い物や行きたい場所へ個別に出かけるなどの外出支援をしています。行事として弁当を持って動物園に行ったり、みかんやいちご狩り、水族館等への外出支援を行い、利用者に楽しんでもらっています。また、花見や紅葉狩りなどにも出かけ、季節を感じてもらおうよう支援しています。	



グループホームだいのじ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・そのように努力している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・そのように努力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように努力している。	リビングは広く掃き出し窓や大きな窓があり明るく、カーテン等で採光を調節したり、換気や加湿器の設置等で環境を整えています。ガレージや庭に多くのプランターを置き花を育てたり、食卓に生花を飾り、季節感を感じられるよう配慮しています。各フロア毎に過ごしやすいようテーブルの配置を変えたり、ソファを置き少人数で過ごせる空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・そのように努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように努力している。	居室はクローゼットのみが設置されており、入居時に自宅と考え使い慣れた物を持って来てもらうように伝えています。ベッドやテーブル、いす、テレビ、ヒーター、冷蔵庫等を持って来られ、自分らしい居室作りをしています。希望や状況によっては、ベッドではなく布団を敷き休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・そのように努力している。		